

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム希望の里

ユニット名 _____

自己評価実施年月日 平成 19年 9月 28日

記録者氏名 岩見香津江

記録年月日 平成 19年 10月 1日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るい家庭的な施設、地域に開かれた施設を目指し、「個人の人格を尊重し、ゆっくりゆったり自分らしく生きることができるよう援助を行う。」事を理念として掲げている。	○	地域ともっと密接に係りを持つよう運営会議を活用して、地域の方に気軽に来所頂いたり、保育園や幼稚園とも連携して慰問に来ていただく予定である。また、越知町の文化祭やコスモス祭りなど地域の行事に積極的に出かけている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会や研修、職員会議を定期的に行ない運営理念の実現に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議でホームの理念を伝え、地域と密接に繋がってほしいという思いを伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所や商店街を散策したり、畑作りをする中で地域の方と気軽に声を掛け合っている。また、運営会議を活用して地域の方に寄って頂けるよう努めている。	○	ご近所の方や民生委員、包括支援センターの職員などにコーヒー券を配布して、気軽に立ち寄って頂けるように準備している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動や文化祭やお祭りに積極的に参加している。	○	イベントだけでなく、日常的に気軽によって頂けるホームと成るよう運営推進会議を活用して、地域の方や保育園児などが気軽に来て頂ける様予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在地域貢献となる取組は行っていない。	○	包括支援センターが取り組んでいる健康体操「きたえん坊将軍」をホームで取り組んでいるが、地域の高齢者も交えて今後開催したいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員各自が自己評価した上で、評価項目を取りまとめ外部評価を実施し、評価内容を検討し、家族会や運営推進会議にも諮って具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヵ月の割合で、運営推進会議を開催し、利用者の状況や活動報告をし、今後の運営の方法や地域との連携について話し合い活用している。	○	今後も地域との連携を中心に据えて、消防や警察とも連携して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の日程調整や連絡のため、役場や包括支援センターを訪れ、近況報告や行事へのお誘い等面談する機会を作っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	身体拘束廃止に向けた施設管理者研修会に毎年参加し、その中で地域権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を得ている。現在の所必要な方は居られないが、必要に応じて検討して行きたい。	○	身体拘束廃止に向けた施設管理者研修会に毎年参加し、その中で地域権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を得ている。現在の所必要な方は居られないが、必要に応じて検討して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習に参加し、またホーム内の勉強会も行っている。	○	継続して、繰り返し学べるよう今後も研修に参加したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホームの見学や生活の内容・ホームの運営方針をお話しし、不安や疑問点がないか尋ね、理解・納得して頂いた上で、契約を結んでいる。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に訴えを傾聴し、その都度対応している。外部へ表せる機会としては、初期の頃は家族会や運営推進会議に利用者も参加して頂いていたが、最近では認知症の進行と共に積極的に参加して頂けてなかった。	○ 利用者の認知症の進行に伴い、家族会や運営推進会議へ積極的に参加して頂いてなかったが、今後は参加して頂けるよう配慮したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りとして、個別に健康状態や様子を報告し、金銭管理については、毎月の請求で、通帳の写しや買物の内容や領収書を添付している。入居者や職員の異動については家族会やお便り等で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情処理担当者の設置、入居前に説明すると共に家族会や運営推進会議でもご意見を伺う機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や行事には必要な人員を配置している。利用者の重度化に伴い、夜間帯特に就寝までの時間帯は人材確保したいところだが、1ユニットでの人員確保には限界があり、簡単にはいかない。	○ 状況に応じて、今後遅出の時間をずらし、就寝までの時間を安全に過ごせるよう検討する必要もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・職員の異動は最小限に抑え、職員全員が馴染みの者となり、異動によるダメージが少ないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修・勉強会計画を立て、職員の段階に応じて外部の研修への参加やホーム内での勉強会を定期的に行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や越知町ケアマネージャー連絡協議会、高知県在宅老所・グループホーム連絡会、他グループホーム主催の勉強会へ積極的に参加している。	○	開設当初は、他グループホームへの研修があったが、新しい職員は他ホームの研修が出来ていないので、今後計画実施して行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事も利用者と共に摂るため、昼休みにきっちりとした休憩が取り難いが、30分づつ交代で休むめるようにしている。管理者や職員の要望や意見を利用者に不利益にならない様考慮しつつ取り入れている。	○	ストレスを軽減する努力はしているが、日々の介護をする中でなかなか解消できていない。今後も職員全員で話し合いや研修をする中で意識の変化や向上を図って行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議や勉強会を通して、認知症の方に対する理解を深め、プロ意識を持って対応してゆくことが重要である事を常に伝えている。また、職員に対応した研修や勉強会に積極的に参加して頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず1~2回面接し、ご本人からも良くお話しを伺っている。自宅から入居される場合は、ホームの見学にも来て頂いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず1~2回面接し、ホームの見学をして頂き、ご家族が困っている事、不安な事、求めている事を伺っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要ならば受診や通院リハビリテーション等、ご家族と協力して援助している。また、整形外科医師やリハビリ技師と連携して、ホームでのリハビリテーションも行っている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは馴染んで頂くことが大切なので、無理に生活リハビリやレクレーションに誘うのではなく、ご本人の性質や意向を尊重してゆっくり生活に馴染めるよう配慮している。また、家庭で使用していた茶碗や箸、タンスなど出来るだけ馴染みのものを持って来て頂く様ご家族に協力して頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各々に洗濯物たたみや簡単な調理、食器の片付け、金魚のえさやり等役割を持って頂き、生活の場に参加して頂いている。畑での野菜作りや料理の味付け等では、その方が培ってきた経験や知恵を授かる場面もあり、支えあう関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や季節の行事に参加して頂き、準備や片付け、アトラクションに出演して頂いたりご協力頂いている。また、日常面会にみえた際やおたよりで近況を報告し、共に支えてゆく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係を良好に保つ為にもスムーズにホームに馴染めるよう援助し、面会や外出・外泊も積極的に勧めている。また、家族会には会食し、団欒する機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅願望の強い方には自宅に帰る機会を設け、ご近所の馴染みの方とお話したり、近所への散歩に出かけたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同士と一緒に洗濯物たたみや食器拭きに参加して頂いたり、トラブルにならないよう利用者同士の関係を把握した上で、席順や配置に配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も一定期間、退所先へお見舞いや面会に出かけ、ご本人、ご家族の様子や意向を伺っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の職員会議の中で、職員が受け止めた利用者の希望や意向、ご家族の意向も考慮してご本人にとって、何が一番良い事か、職員本意のケアにならによる常に検討を重ねている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にもご本人・家族・関係機関の職員より情報収集したり、入居後も会話の中でご本人を取り巻く環境について把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居し、生活する中で生活パターン、身体状況、好きな事、出来ることを把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで身体状況やケア内容を話し合い、本人・ご家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回／3ヵ月の見直しの他に、介護認定月、身体的変化が生じた際に本人・家族・入院先の医師やケアマネージャー、リハビリ技師等と相談し、新たな介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に則り、日々の介護記録を記載している。また、その情報から実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	リハビリテーションの必要な利用者には、ご家族と協力して、リハビリテーションへの通院など必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる生花教室や敬老会等へのアトラクション参加、防火訓練では毎年消防と連携して実施している。今後は運営推進会議を活用して民生委員や地域の方々、警察、教育機関と連携を深めて行きたい。	○	ボランティアによる生花教室や敬老会等へのアトラクション参加、防火訓練では毎年消防と連携して実施している。今後は運営推進会議を活用して民生委員や地域の方々、警察、教育機関と連携を深めて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、通院リハビリテーションを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護についての勉強会に参加し、必要に応じて対応してゆくが、現在の所利用の必要な方はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	時に尊厳を傷つけるような声掛けや配慮に欠ける援助になっていないか、常に振り返り、反省し、職員会や日々のミーティングにて十分話し合っ行ってきたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	時に職員の都合を優先していないか常に振り返り、その人らしく暮らしているか話し合い、寄り添って行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		外出や行事の際は、よそ行きに着替え薄化粧するなど支援している。また、定期的にホームに美容師に来所していただき散髪しているが、ご家族・本人の希望の美容院・理容店に行かれる方もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として、野菜の下ごしらえなどの簡単な調理や食器拭き、片付けを役割にして下さっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのおやつや喫煙など、各人に合わせて支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の排泄パターンをチェック表にて把握し、昼間はトイレ誘導し排泄できている。個々の状態に合わせて支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ毎日入浴できるよう、本人の希望に沿って援助している。また、一人ずつ入って頂き、ゆっくりとプライバシーを守りつつ介助している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて、全介助の方は休憩時間を設け支援し、見守りの方は声掛けしたり、本人の意向に沿って支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、洗濯物たたみや金魚のえさやり、食事の準備と各自の状況に合った役割を持って頂いている。また、外出の好きな方には、近所の散歩など気晴らしに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者は、お小遣い程度のお金を所持しており、買物される事もある。大多数の方は金銭管理はホームでさせて頂き、買物の際は立替払いし、翌月請求させて頂いている。	○	金銭の自己管理については、以前の外部評価でも指摘はありましたが、ご家族の要望もあり、ホームで管理している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	涼しい季節には、戸外でレクレーションしたり、散歩や買物など、2～3回/週の割合で支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別にご家族と共にふるさと訪問したり、季節の催事に出かけたりしている。	○	天理教への参拝や入院のお見舞いなど、個別に行きたいところへ行けるよう計画している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話が出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設定しておらず、いつでも訪問して頂けるようにしている。また、お茶をお出しし、ゆっくり歓談できるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修には、毎年参加し、できる限り拘束しないケアに取り組んでいる。現在、就寝時に柵を2本する方が1名あるだけであり、ご家族の同意の上、定期的なカンファレンスと記録を実行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、21時に行っており、日中は自由に出入りできるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中居室で過ごされる時は、定期的に様子を伺っている。また、夜間は定時の見廻りの他にもトイレやポータブルトイレの介助、物音がすれば必ず訪室するように利用者の安全確認に細心の注意をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミ、漂白剤など危険物は直ぐに目に付かない場所に保管している。手の届かない場所ではないが、利用所の動向に注意しながら、危険を防ぐ取り組みをしている。(H18年には、洗濯場の物品置き場にカーテンの仕切りを設置)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルを作成し、勉強会をして周知徹底している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホームでの勉強会や外部の研修に定期的に参加し、勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年秋に火災訓練を消防と協力して実施している。運営推進会議を活用して、地域の方々に協力いただけるよう働きかける予定である。	○	災害対策については消防と協力し、対応してゆく。地域に方の協力が得られるよう、運営推進会議を活用して働きかけして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、面会やケアプランの検討の際、場合によっては来所頂いて、話し合いの場を持っている。各人に合った対応策を検討し、実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員として看護師・准看護師がおり、常に健康管理に努めている。介護職員と情報交換を密にして対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容とその副作用について、個別に作成し把握している。服薬の際は必ず、確認しチェックしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表により、個人の排便のパターンを把握し、水分補給やヤクルトなどの乳酸菌飲料の摂取、適度な運動に努めている。また、主治医より整腸剤の処方を受け、定期的に排便が有るよう支援している方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。各人の能力に応じて適切に援助している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェック表を作成し、各人の状態を把握している。栄養士による献立に基づき、魚と野菜中心で栄養バランスも良い。毎月体重測定し、栄養状態の目安としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、勉強会も行っている。手洗い・うがいの励行、週1回シーツ交換・最低月1回の布団干し、手拭タオルは本人持ちとし、毎日洗濯しており、衛生管理に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的になま板や包丁の消毒をし、2回/週の食材の仕入れ、肉・魚は毎日配達して頂いている。また、調理後の食材の一部を保存（一定期間）し、1回/半年の職員の便検査を実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に畑を作り、プランターやベンチを置いて親しみやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な家具や照明器具、台所周り、浴室であり、季節感のある飾りや植物で雰囲気作りに工夫し、居心地良く過ごせるよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食堂の他に喫煙コーナーなど思い思いに過ごせる居場所を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居の際には、できるだけ家で使っていた馴染 みのタンスなどを持って来て頂く様にお願 いはしているが、古くて重く、運搬に困る ためなかなか持ち込んで頂けないのが現 状である。馴染みの置物や人形、写真な ど出来るだけ生活感のある物品を持って きて頂いている。	○	小さな整理ダンスや仏壇などその方の生 活に密着した物品を持ち込んで頂ける様 、今後も働きかけて行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	夏場は外気との温度差を少なくするよう、涼 しい内は外気を取り入れ、冷やし過ぎに 注意し、冬場は加湿器をかけて乾燥に注 意し、定期的な換気を実行している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	段差をなくし、廊下やトイレ内は手す りを付け、解りやすいトイレや部屋 の標識を出し、見守りの中で自立して 生活ができるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	居室の入り口に目印となるものを付 けたり、トイレのサイン等混乱を防ぐ よう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんで、活動できるように活かし ている	玄関前の畑で、季節の野菜を作って 楽しんでいる。また、気候が良い時 期は気分転換のため屋上のベンチ でお茶をしてレクレーションを楽し んでいる。	○	最近、屋上の利用が少ないので もっと活用して行きたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

クリニックが併設しており、健康管理については主治医の週1回の往診もあり安心できる。緊急時はいつでも対応できる体制を取っている。ホームの車も10人乗りワゴンと軽自動車があり、買い物や散歩、行楽シーズンは出来るだけ戸外に出るように援助している。また、設立当初より家族会があり、年3回、お花見・バーベキュー・クリスマス忘年会と会食しながら親睦を深めている。